

<講演抄録>1. 宮城県下一農村地区の35~87歳住民における舌疾患の有病状況についての一調査成績(第15回東北大学歯学会講演抄録)(一般講演)

著者	深瀬 啓之, 田浦 勝彦, 島田 義弘
雑誌名	東北大学歯学雑誌
巻	8
号	2
ページ	109-109
発行年	1989-12-28
URL	http://hdl.handle.net/10097/31333

第 15 回東北大学歯学会講演抄録

日時：平成元年 6 月 22 日(木) 午後 1 時

場所：東北大学歯学部 B 棟 1 階講義室

—— 特 別 講 演 ——

歯科用複合材料金属とセラミックスの接合について

本間久夫（歯科理工）

金属とセラミックスとの接合は、歯科における焼付け陶材であり、金属とセラミックスの複合材料である。その「接合」はつまり“くっつけの機構”から始まり、実用上最も重要な一つである。

そこで、接合に必要な下記の項目をとりあげ、接合のプロセスとメカニズムに焦点を絞った。

その結果、合金の表面にスパッタ層を形成したものは合金とセラミックスとの媒介層（酸化物）になり化学的接合^{*}される。このことは界面の電顕観察による元素の挙動からも強固な接合強さの維持に寄与していることを一層明確にした。

項 目

- (1) 金属とセラミックスの一般的性質

- (2) 熱膨張係数

- (3) 金属と陶材の熱膨張の差

- (4) ぬれ性

- (5) 金属とセラミックスの接合様式

化学的接合

{ 卑金属合金成形体に金属クロムおよび金属チタン^{*}のスパッタ層を形成する接合方法^{*} }

- (6) 焼付用金属

- 1) Ni-Cr 合金

- 2) オーステナイト系 Fe-Ni-Cr-Co-Mo 合金
(铸造用超ステンレス鋼の試作)

- (7) 接合体の界面組織と接合強さ

—— 一 般 講 演 ——

1. 宮城県下一農村地区の 35～87 歳住民における舌疾患の有病状況についての一調査成績

深瀬啓之、田浦勝彦、島田義弘（予防歯科）

成人においては重篤な舌疾患が稀に見受けられるが、その他の舌の異常や病変は一般に軽症で自覚症状も乏しく、軽視されがちであり、それらの有病状況に関する調査成績は少ない。そこで我々は、宮城県下一農村地区の 35～87 歳の住民 1,255 名（男性 572 名、女性 683 名）について、1988 年 7 月の地域の成人総合健康診査時に舌疾患の有無を診査し、以下の成績を得た。

1) 男性の有病者率は 63.6%、女性のそれは 48.2% であった。5 歳間隔の年齢階級別有病者率は男性が 47.3～73.8%、女性が 27.3～61.1% の範囲にあり、同一年齢階級では男性の有病者率が女性のそれより常に 6.2～33.8% 高く、50 歳代前半と 60 歳代前半では統計学的有意差を認めた。2) 検出された舌疾患は、舌苔、圧痕舌、静脈拡張症、溝状舌、平滑舌、舌強直症、舌

先部の貯留嚢胞、毛舌、地図状舌、血腫、正中菱形舌炎、びらん、舌小帯欠如、潰瘍の 14 種類であった。その中で比較的多かった舌疾患とその有病者数及び割合は、男性では舌苔（163 名、28.5%）、静脈拡張症（81 名、14.2%）、圧痕舌（79 名、13.8%）であり、女性では圧痕舌（81 名、11.9%）、平滑舌（70 名、10.2%）、溝状舌（68 名、10.0%）であった。3) これら舌疾患が 2～4 種類併存した例はかなり多く、男性で 134 例、女性で 81 例あった。各年齢階級において男女各々の被検者中に 2～4 種類の舌疾患が併存した割合は、男性では 9.3～35.7%、女性では 5.1～16.7% であり、増齢に従い男女とも増加傾向を示した。また、40 歳代後半を除く各年齢階級において、これら舌疾患が併存した割合は男性が女性より 2.6～21.4% 高かった。しかし、それらのほとんどは 2 種類併存例で男女各々 107 例と 71 例であり、そのうち、男性では舌苔と溝状舌併存の 19 例、女性では平滑舌と溝状舌併存の 13 例が最も多かった。